

**質問者①**

Q1 の業績進捗について、調整後 EBITDA では予想より 30~40 億円程度上振れていると思うが、費用の期ズレや特殊要因があったのか。

**CFO 剣持**

Q1 の実績は計画より上だった。Q1 の調整後 EBITDA 実績が前年同期比で 47 億円の増益だった一方、上期の同業績予想が前年同期比で 30 億円増益である点を踏まえても、Q1 は上振れたと言える。主な要因は、Staffing SBU 及び Asia Pacific SBU の増益幅が大きく、いずれの SBU も生産性向上施策の効果が出てきている。販管費の期ズレは極めて少ない。

**質問者①**

Q1 は確かに Staffing SBU 及び Asia Pacific SBU の進捗率が高く見えるが、主に生産性向上によるものということであれば、Q2 以降も継続性があるという理解でよいのか。

**CEO 和田**

そのように見ていただいて差し支えない。ただし、マーケットの動きは常に流動的であり、大きな変化がないか常に注視はしている。

**質問者②**

調整のマイナスが前年同期比で減少している。本社費用の削減効果ということだが、その具体的な内訳と金額、今後の持続性について教えてほしい。

**CFO 剣持**

前年同期比では、システム導入が前期で一巡したため、今期はその分費用が少ない。よって、Q1 に限らず、Q2 以降もその傾向は続く。

**質問者②**

調整は営業利益ではマイナス 130 億円程度の通期予想に対し、Q1 の実績及び前述の回答を踏まえると、それは営業利益の押し上げ要因になるか。

**CFO 剣持**

システム関連の費用については、調整後 EBITDA のみならず、営業利益についても同様の傾向である。  
会社補足：期初計画においては、各 SBU に帰属しない費用を調整として織り込んでおります。Q1 時点では当該費用の発生額は限定的でしたが、今後の発生可能性を踏まえ、現時点では通期営業利益の上振れ要因として織り込んでいるものではありません。引き続き四半期ごとに費用の発生状況を確認してまいります。

**質問者③**

Career SBU の減収が気になる。業績回復時期の見通しと、その蓋然性をどのように見ているか。

**CEO 和田**

Career SBU における doda と doda X の ID 統合の影響は重く受け止めている。システム改修は完了しており、今後は影響の極小化と下期以降の早期回復が重要な課題である。市場環境としては厳選採用が継続しているなか、企業ニーズに合わせたマッチング精度の向上を大きなテーマとして取り組んでいる。

**質問者③**

Career SBU の KPI について、生産性は上がっている一方、人員数は引き続き減少している。需要回復時でも十分対応できる体制は維持できているのか。

**CEO 和田**

フロント人員については、市場環境に応じた柔軟な配置を強みとしている。マーケットの回復やハイクラス領域での需要拡大が生じた場合でも、人員配置の最適化や他領域からのシフトにより十分対応可能。人材紹介事業を主力としている会社として、その点は自信を持っている。

**質問者④**

Asia Pacific SBU について、ポートフォリオのあり方を検討しているセグメントである一方、足元の業績は改善傾向にあることを踏まえ、前期末時点からポートフォリオ見直しに関する方針が変わる可能性はあるか。

**CEO 和田**

Asia Pacific SBU に限らず、当社グループ全体として、どのような事業ポートフォリオを構築していくかは今中計の大きなテーマであり、どの領域に経営資源を集中すべきかを検討している。一方で、各事業においては収益性や生産性の向上に継続的に取り組んでおり、Asia Pacific SBU についても ROIC が 10% 近い水準まで改善していることは我々としても大きな手応えを感じている。ただし、個別事業の足元の業績改善が直ちにグループ全体のポートフォリオ戦略の方向性を変えるものではない。

以上